

TRANSPARENT GENERATION 5 “OPUS” Power Cord

トランスペアレント“Gen5” 新フラッグシップ・電源ケーブル “オーパス”パワーコード



西暦 2000 年、ミレニアムの年、トランスペアレントはケーブル製造に於ける当時の最高水準を確立したオーディオケーブル“OPUS”を発表。精緻なその製造技術は、“ミレニアム”に因んで“MM テクノロジー”と命名。その後それは、およそ 8 年の歳月を経て“OPUS MM2”に、さらにまた幾年もの研鑽を重ね、2014 年、それは、“MAGNUM OPUS”となって究極的進化を遂げました。トランスペアレント第 5 世代に輝くその最新テクノロジーの成果は、即座にすべてのオーディオケーブルに投影され、今日の最新ラインナップ“Generation 5”シリーズとして結実。“MM テクノロジー”を母胎としてさらなる発展を遂げたこの“Generation 5 テクノロジー”の革新的ファクターは、そして遂に、電源ケーブルのジャンルにも及びます。

現行ラインナップのトップモデル“PLMM2X”の上位を飾る“OPUS” Power Cord の誕生です。

1980 年から脈々と続いてきたトランスペアレントの歴史を燦然と彩る電源ケーブル第五世代のフラッグシップモデルとして、“OPUS” Power Cord は、その素材、構造、ネットワーク、ダンピング、製造技術など、トランスペアレント独自の電源ケーブル・テクノロジーの究極的昇華を達成。オーディオコンポーネントへの、クリーンで揺るぎなく屈強な、質の高い電力搬送に求められる電源ケーブルの果たすべきパフォーマンスの頂点に君臨します。

[テクノロジー]

“Generation 5”オーディオケーブルの開発過程で、トランスペアレントは、伝送性能に於けるノイズフロアと電流駆動能力が、音楽信号の純度、換言するならば、「トーンバランス」、「ダイナミックレンジ」、そして、「スペース感」といった再生のリアリティーを決定付ける三つのファクター、に如何に絡み、その改善に、限界にまで迫るノイズフロアの低減化とより大きな電流駆動能力が特に肝要であるかを改めて示しました。そしてその理想値を実現するための製造技術がかつてないレベルで達成されました。

そうした伝送性能における於けるノイズフロアの限界への低減化と大電流駆動能力を果たす“Generation 5”ケーブル・テクノロジーの威力は、電源ケーブルに於いてもこれまでトランスペアレントが達成してきた最高レベルのモデル“PLMM2X”をもさらに凌駕する可能性を示唆しました。

電源ケーブルへのテクノロジーの範疇は多岐に亘ります。電力搬送における駆動力を司る基本要素「ターミネーション特性」と「ケーブル導体能力」及び「エネルギーロス対策」、電力の質を左右する「ノイズ対策」と「振動対策」、さらにそれらのクオリティーレベルに関わる「部材の質」とその「構造」、そして最終的な「アッセンブリー・テクニク」といった様々な要素であり、それらは、微に入り細に入り絡み合います。

“OPUS” Power Cord は、これまで“PLMM2X”で実現してきた高度なテクノロジーに加えて、“Generation 5”を代表する OPUS オーディオケーブルの開発で見出された新たなケーブル設計/製造技術と、電源ケーブルとしては初めて、ケーブル長の違いによるインダクタンスの微妙な差異をも補償する新たなネットワーク技術、そして新たなネットワークモジュール化技術を投入した、トランスペアレント技術の集大成となる電源ケーブルです。

■ターミネーション・テクノロジー

3p プラグと IEC コネクターの両ターミナルへのケーブル導体の結合構造に新たなアプローチを開発。ケーブル導体とターミナルの接合ポイントの幾何学的整合性に優れた安定化を図っています。また、AC コンセントと IEC インレットへの一段と強靱な接触が得られる新素材のコンタクトを採用し、低接触抵抗化による電氣的接点での歪みとエネルギーロスの最小化を実現しています。



■レゾナンスダンピング・テクノロジー

“OPUS”プロダクツの象徴でもあるカーボンファイバー素材によるアウター・シェルをプラグ/コネクター/ネットワークの各ハウジングに採用。それぞれ、内部には空隙を埋めるエポキシ系制振材が充填され、アッセンブリー段階では、微細なトルク管理を徹底しています。メカニカル・レゾナンスを極限にまで抑え込むための強力な制振対策です。

■ケーブル・テクノロジー

“OPUS” Power Cord のケーブルには、その素材、構造、アッセンブリー・テクニックの全てに亘って、“Generation 5”オーディオケーブルで確立したコンストラクションの新基準と素材選定、そして非常に厳しい製造管理スペックが適用され、その製造工程では設計目標に対して寸分の狂いもない厳格化を図るため、最も高度に熟練した技術者によってアッセンブリーされています。ライブ/ニュートラル/グラウンドの各導体は純度 99.999%の OFHC 銅線が複数本撚り束ねられ、束の隙間を完全に埋め尽くすように絶縁被覆で覆われます。タイトにツイスト結束された各導体は射出成形された外皮で寸分の隙間もなくカバーされ、物理的な安定性を確保することでケーブル自身の電気的特性を極めてコンスタントに維持します。採用された大容量 10AWG の導体ゲージと内部形状、そしてコンストラクションなどの最終スペックは、様々なプロトタイプによる幾度もの慎重な伝搬特性テストと音質チェックの積み重ねを経て決定されました。

■ネットワーク・テクノロジー

“OPUS” Power Cord には、PLMM2X をはじめとするこれまでのトランスペアレント電源ケーブルのプロダクツと同様に、AC 電灯線ラインから混入してくる電磁ノイズを低減するフィルター・ネットワーク・モジュールが搭載されています。しかし、

これまでと大きく異なるのは、ケーブル長の違いによるインダクタンス、キャパシタンスおよび抵抗の変化をも補償する革新的なネットワークであることです。トランスペアレントは伝統的に、オーディオケーブルにはそうしたネットワークを搭載し、長さの違いに応じて最適なフィルター時定数となるようにチューニングされていますが、電源ケーブルに於いては初の手法です。オーディオケーブルが扱う変化にとんだ低周波帯域の信号に比して定常的で波長の長い電源周波数に対するノイズフィルターでは、ケーブルのごく僅かな L/C/R 成分の影響は無視できると思われがちですが、チューニングによる厳密なマッチングを図ることで、実はそれがノイズフリーで生粋の電力搬送に微妙に、しかし劇的に関わることが検証され、標準長 2m に対して、1m や 3m など、異なる長さでも理想的な特性が得られることを可能にしました。

ネットワークの電磁ノイズ低減効果は GHz 帯域にまで及ぶと同時に、高密度な導体のツイスト構成によるオーディオ帯域でのノイズキャンセリング効果も併せ持ちます。カーボンファイバー・シェルに包まれ、制振能力に於いても別格のネットワークモジュールが“OPUS” Power Cord には搭載されているのです。

“OPUS” Power Cord が到達した圧倒的進化のテクノロジーは、電源ケーブルの歴史に新たなランドマークを打ち立てます。電源はすべてのパワーの源です。様々なコンポーネント、様々なアクセサリや接続ケーブル類の前に、まず、電源の質がオーディオシステムの再生品位に根源的、そして決定的に関わります。“OPUS” Power Cord がもたらす電力搬送能力は、その劇的な S/N 改善力と底知れないパワーを秘めたダイナミズムによって、改めてそれを覚醒させることでしょう。

